

内容	「天のう様のお祭り」再開しませんか。 子供のころの「天のマチ」のあの賑わいを時々思い出します。カルメ焼きを初めて見て驚いたこと今でも目に焼きついています。参道両脇にぎっしり並んだお店は、なぜやめてしまったのでしょうか。子供にとって年に一度の楽しみを味あわせてあげたいです。 ついでに本来「牛頭天王宮」だった神社名が明治に「夷隅神社」になりましたが長く続いた「牛頭天王宮」に戻せないものでしょうか。「天のう様」の由来です。子供の頃、夷隅神社なのになぜ「天のう様」と親が呼んでいたのを不思議と思っていましたが、江戸時代には「天のう様」と呼んでいたことを知りました。「のぼり」をたてて終りでは寂しすぎます。千葉県中に「牛頭天王宮」がたくさんありましたが、大多喜以外は「八坂神社」を名乗っています。 「何でもやめよう」ではなく「何でもやってみよう」の町になってほしいです。祭好きはそれなりにいると思います。
回答	御提案のありました天王様のお祭りにつきまして、祭りを実施していた新丁区にやめた理由を確認したところ、太鼓を叩ける者や、踊りを踊れる者が少なくなり、中止したとのことでした。 地域の風習としての祭りを再開するのは、地域の方々の判断により行うべきものだと考えますが、子どもにとってお祭りは大人になっても記憶に残るとても大事なイベントだと思います。 町としましても、子ども向けのイベントとして大多喜ZZの開催や、お城まつりやレンゲ祭り等へ補助金の交付を行いイベントを開催しているところです。 これからも、子ども達、また町民皆がより楽しめるイベントの開催に

取り組んでまいりますので、御理解くださるようお願い申し上げます。

次に「夷隅神社」の神社名を「牛頭天王宮」に戻せないかというご意見ですが、神社名が「夷隅神社」になった経緯につきましては、過去の文献を見ますと1701年に創建され、牛頭天王社と呼ばれていた神社が明治元年10月に明治新政府の政策によって夷隅神社に名称が変更になったという記述があります。

神社の名称変更につきまして、神社庁へ確認したところ、その神社について以前の呼称や名称であって、それが分かる文献や碑などがある場合、宮司、氏子等で協議したのち神社庁へ協議いただき変更できるケースもあるとのことでした。